

編集後記

第6回目の共通1次試験は、さる1月14日、15日の両日、各国公立大学及び産業医科大学のご協力のもとに、無事に終了することができました。

最近、教育改革について、臨時教育審議会も発足し、また、各界でさかんに論議が行われていますが、共通1次試験の改革も重要課題の一つとされています。国立大学サイドとしては、国立大学協会の第2常置委員会と入試改善特別委員会を中心に鋭意検討が進められ、昭和60年度については、試験の実施時期を約2週間程度繰り下げ、1月26日、27日とすることとし、61年度以降についてはさらに検討が行われています。また、試験科目数及び受験の機会の拡大についても具体的な検討が進められています。

本号では、現行制度の発足に当たり、国立大学協会の入試改善調査委員会委員として御尽力され、さらに当センターの運営協議員として、この制度の改善についての検討に当たられている丸

井文男愛知教育大学長に「6年目を迎えた国立大学入試をめぐる諸問題」について、また、加藤陸奥雄前所長に「中国の大学入試」について、御執筆いただき、巻頭に掲載することができました。

事例紹介は、国立大学の医学部としては、初めて第2次募集を実施された鳥取大学、推薦入学を実施されている福島大学（教育学部、経済学部）及び小論文・面接入試を実施されている浜松医科大学の事例を紹介していただきました。

研究ノートでは、前号に引き続き、「解答分析(国語)」及び高等学校からみた「大学入試と高校教育」など、計5件の研究状況について紹介しています。

本号の刊行に当たり、御多忙の中を御執筆いただきました、丸井、加藤、湯本、真木、篠原、河合の諸先生及び浜松医科大学入学者選抜方法研究委員会に厚くお礼申し上げます。